

医療法人川崎病院 川崎病院

## 1. 施設の概要

所在地：兵庫県神戸市兵庫区東山町 3 丁目 3 番 1 号

病床数：278 床

一般病床：278 床（うち ICU/CCU：6 床）

病院HP：<http://www.kawasaki-hospital-kobe.or.jp/>

## 2. 地域及び施設の特徴

川崎病院が属する二次医療圏は神戸市全域を圏域とする神戸二次医療圏であり、当該医療圏の人口は約 153 万人です。

川崎病院は 1936 年（昭和 11 年）、川崎造船所（現在の川崎重工業）の企業病院として開設され、1950 年（昭和 25 年）に医療法人として独立し、その後、現在に至るまで地域に高度医療を提供すべく、施設と職員の充実に努めてきました。



2013 年（平成 25 年）には西館が竣工し、最新鋭の血管撮影装置などの高度医療機器の導入や、ICU/CCU に代表される救急医療施設の拡充により「急性期医療」体制の強化を実現しました。

また、医療連携に関連して、院内に開放病床を設置するなど、地域の医療機関との連携を積極的に進めています。

## 3. 事業計画の概要

### （1）事業計画に至った背景等

今回の事業計画は、1936 年（昭和 11 年）より稼働してきた本館の老朽化による耐震化整備事業として、救急医療施設を拡充させ急性期医療体制の強化を視野に入れた新棟の建替に至ったものであり、主な建築ポイントは次のとおりです。

- ① ICU/CCU の新設及び心カテ室の増室と機能強化
- ② 救急搬送動線の確保
- ③ 手術室の増室（4 室から 5 室）
- ④ 研修環境の整備

これらの整備が従前の施設では成し得なかった救急医療の基盤確立の一助となり、同時に急性期医療体制の強化を実現しました。

## (2) 建物の概要

工 期	平成 23 年 3 月～平成 25 年 12 月
建築延面積	13,934.20 m <sup>2</sup>
階 数	地下 2 階 地上 7 階

### 4. 施設整備におけるポイント

機構融資対象となった病院新棟における施設整備のポイントについて紹介します。

#### (1) ICU/CCU の新設及び心カテ室の増室と機能強化

新病棟の最大の特徴とも言える「救急医療の充実」を実現するために、新棟 3 階に救急外来、ICU/CCU、心カテ室を配置しました。心カテ室を救急外来と ICU/CCU の間に配置することで、救急外来に搬送された心筋梗塞等の重症患者を迅速に検査、治療へと導くことが可能になりました。また、旧館より移設した撮影装置に加え、新たに最新鋭の機器を導入したことに伴って心カテ室を増室（1 室から 2 室）しました。この最新の機器においてはデジタル処理技術の向上等により、旧機器に比して格段の高画質・低被曝を実現しています。これにより川崎病院の心臓カテーテル治療はさらに安全・正確なものとなり、平成 26 年における経皮的冠動脈形成術 (PCI) の施行数は 400 件超と診療圏でも屈指の実績となる見通しです。



(ICU/CCU)



(最新鋭の血管撮影装置)

#### (2) 救急搬送動線の確保



(新館 3 階救急受付)

従前の施設では救急搬送動線が悪く、入口から 20～30 メートルを通過して処置室まで患者を運んでいました。今回の事業計画により、新館 3 階に救急入口を設け救急車を乗りつけられる構造としたことで、上記 (1) で述べたように、新館 3 階の救急外来へ救急車から直接患者を搬入することが可能となりました。

### (3) 手術室の増加 (4室から5室へ増室)

増え続ける悪性腫瘍患者に対応するため、川崎病院では今回の新棟建築に合わせ、手術室の全面的なリニューアルを実施しました。4室だった手術室を5室に増室し、そのうちクリーン手術対応の手術室を2室に増室することで、スタッフ数を変えずに手術待機時間(準備時間)の減少が可能になりました。この新手術室には生体モニター情報をスタッフステーションでも確認できるシステムと術野カメラを導入し、これにより医師・看護師・コメディカルで情報の共有ができるようになりました。

(中央手術室)



## 5. 施設整備による病院機能の向上

先に挙げた様に今回の事業計画により ICU/CCU の新設及び心カテ室の増室と機能強化、手術室の増設などにより急性期医療体制の充実を図ってきましたが、今次計画では入院病棟の機能向上にも繋がりました。

新病棟にある病室は“感染症への対応”と“入院患者さんのプライバシー確保”に意識を置いて設計され、2009年のような新型インフルエンザなどが発生した際にも受け入れができるよう陰圧室を設置しています。また、入院患者が快適に治療に専念できるよう多床室では隣の患者との間に家具を配置することで個室感を演出できるようレイアウトになりました。観察室では入院される患者のプライバシーの確保を目的に、観察室とナースステーションの間にある廊下を仕切り、観察室を廊下やスタッフステーションと一体化させました。観察室に入院する患者は他の患者の目を気にしないで治療を受けられるというメリットを、看護師は観察室に過度に入室せずに看護することができるというメリットを、それぞれが享受できるようになりました。



(家具配置により個室感を感じる多床室)

## 6. 今後の課題

新棟建設により急性期病院としての機能向上を実現しましたが、この機能を活かし、これまで以上に地域医療に貢献すべく、病診連携、病病連携及び介護福祉施設との連携の強化に努めていきたいとのことでした。また、患者層として高齢患者が集中しつつあるため、これらの患者にどのような疾患傾向があるか、どのような医療を提供していくか模索し実践していく必要があるそうです。今回の事業計画によりハード面における病院機能の大幅な向上が実現されましたが、従前にも増して地域住民の健康増進に寄与するために、病院内外を問わずソフト面を充実させていくこと、例えば、今回の事業計画により新病棟に設置された大会議室などの研修設備を活用した職員のスキルアップや、地域の診療所や病院・介護施設などを対象とした研修会の開催などを通して、地域医療をさらに充実させていきたいとのことでした。

以上